

ボート競技の歴史とオアーズマンシップにおける考察
～日本とイギリスのオアーズマンシップの比較～
History of rowing and process of oarsmanship
～Comparison of oarsmanship in Japan and Britain～

1K07B133 - 4 田中大誠

指導教員 主査 友添秀則 先生 副査 作野誠一 先生

＜本研究の動機＞

ヨーロッパ方面発祥のボート競技だが、私のおこなっているボート競技には、「武士道の精神」や、「男の美学」など、日本式の考え方が複雑に盛り込まれ、本来のボート競技(オアーズマンシップ)の在り方が不明確であり、自身も日本式のボート競技(オアーズマンシップ)の在り方に疑問を抱いていた。高校からのボート選手生活の中で、世界選手権大会等に出場した際、海外諸国におけるボートの考え方と日本での考え方の特性が異なることに気付いた。また、このような環境の差があるなかで、ボート競技に重要なオアーズマンシップが日本においてどのような特性を持っているのか。また、オアーズマンシップがスポーツマンシップと同義語であると言われているが、それは事実なのか考察していきたい。

＜本研究の目的＞

日本とイギリスのボート競技の歴史を調べ、日本とイギリスにおけるオアーズマンシップ形成の過程を明確にしたい。また今後もボート競技に属し続けるので、ボートの歴史を調べながら、ボート競技に対する自身の理解を深めていきたい。

第1章 イギリスのボートの歴史における考察

水路網の発展が著しかったイギリスでは水上タクシーの船頭同士間における賭けレースが始まりとされているが、こういった漕ぐ事を職業としたプロの漕手が出るレースにはイカサマレースや艇を衝突させるといった、レースに悪影響を与えた。これに対して当時勢力を持ち始めていた中産階級がそれを排除する「アマチュアリズム」が発生し、ボート競技は急速にアマチュアリズムに向かう。また、回転ローロックやシートスライド構造、アウトリガーなどボートの構造的にも飛躍的に発展し、今日のボートに至った。

第2章 日本のボートの歴史における考察

1866年にイギリス人が横浜で漕いだのを最初として、関東の大学生から海外のスポーツということから人気を博した。しかし、もともと海軍のカッター競漕会がもととなっていたため、軍隊的な

様相に変わっていった。それにより、大正時代には人気陰り、戦中・戦後には艇及び艇庫の焼失などの災難に見舞われたが、戦後の国民体育大会の政策によってまた普及しだすが、ボート競技を行う土地がダム湖等の山奥にしか作れず、また莫大な費用がかかるといった面から人口は伸び悩み今日に至っている。また、自身3回参加している早慶レガッタの歴史を調べることで、日本におけるオアーズマンシップの考えがスポーツマンシップに近い意味を持つということ考察することができた。

第3章 オアーズマンシップ形成の過程

序章で述べたオアーズマンシップの特性が、日本とイギリスではどのように異なっているのか、第1章・第2章を踏まえて考察した。日本でもイギリスでもオアーズマンシップは精神的な意味合いを持っていると考えていたが、イギリスにおけるオアーズマンシップはボートを漕ぐ技術のことであり精神的な意味をもたず、そのような精神的な考えは主にスポーツマンシップと同じ意味を持っている。ことが考察することができた。

＜本研究のまとめ＞

イギリスと日本のボートの歴史をさかのぼり、イギリスによるボート競技アマチュアリズムや日本のオアーズマンシップの形成の過程を学ぶことができた。また、回転ローロック、シートスライド構造、アウトリガーといった今日のボートには必要不可欠な構造が、イギリスやアメリカによって発明されたことを知ることができた。またこの研究を通じて、イギリスにおける本来の「オアーズマンシップ」＝「漕艇技術」、日本における「オアーズマンシップ」＝「武士道精神」、そして、「紳士の精神」＝「スポーツマンシップ」という新たな見解を得ることができた。